

『少年の日の思い出』ディベート後の考え

ディベート論題A「蝶を収集する人としてエーミールは僕より適しているか」

僕は、どちらが適しているかわからない。「僕」の方は普通に蝶集めを楽しんでいて、蝶が好きなのが伝わってくるが、ものすごく好きなら、やはり盗みなんてしないと思う。

エーミールの方は、僕がつかまえた蝶になんくせをつけたり、素直にほめることができないのは悪いけれど、蝶をととても大切にしているのが少しだけ伝わってきた。したがって、どちらも適しているような気もする。

このディベートをやって、初めはエーミールなんてとても悪いやつと思っていたけれど、その考えが少し変わった。

私は、どちらとも言えません。エーミールチームの立論に「そうだなあ」と思ったりもしたし、僕チームも、自分たちの立論で「そのとおりだ」と思ったこともありました。子どもの遊びなのだから、やる人が楽しめば、それでもいいのではと思います。

僕がクジャクヤママユを傷つけてしまったのは悪いことだし、エーミールがコムラサキにねだんをつけたのも何だかしっくり飲み込めません。お互い様でしょうか。

エーミールは、僕より適していない。なぜなら、収集家はハートだからだ。エーミールには、蝶への愛がない。いくらクジャクヤママユを持っていたとしてもエーミールは、その蝶を何のために持っているのか。それは、自分をアピールするための舞台の道具にしかすぎない。

しかし僕は、蝶と一緒に生きている。最初はただ流行で集めていたにせよ、ちゃんと後のほうでは、僕が自分の意志で収集していることがわかる。呼吸している小さな小さな命を手に入れたときの僕の好きな快感。それは、蝶でなければならぬものだ。カエルやクモではだめなのだ。僕が手に入れたかったのは、どんな蝶でもいい、一匹の蝶のすべてでもあったのだ。

ディベート論題B「僕が寝台で蝶をつぶしたことは事件の解決になったのか」

「ああ、なんてことをしてしまったんだろう」こう思うのは生きていて必ずあることです。一度やってしまったことは、もうどうにもなくなってしまうということは、誰でも知っていることです。

もしも、あなたが世界に一つしか手に入らないという宝を友達が持っていて、それをこわしてどうにもできない状態にしてしまったとき、どうしますか。泣きますか。自分の全財産をあげますか。一生謝り続けますか。何かをしたことで宝が元に戻るといえることはありません。友達の心から自分への怒りを取り去ることはできません。

これは「僕」のことでも同じで、いくら自責を感じても、いくら自分の手で自分のすべてをまっさつしても、エーミールのクジャクヤママユを元に戻すことはできません。一度してしまったことは、もうなにをしてもとりかえしがつかないのです。

また、どんなに「僕」の心の中に反省する気持ちがあふれるほどあっても、その思いがエーミールに届くとはかぎらないのです。僕が何をしようとも、エーミール自ら心から僕を許さないかぎり、この事件は解決しません。